

開館40周年記念

美術館の名品って 

第3部 出品リスト

岐阜県美術館名品尽くし!

【会期】2023年1月5日(木)－3月19日(日)

【会場】展示室1a、b、c、d

*印は寄託作品、他は全て岐阜県美術館蔵。●印は2月5日(日)まで、○印は2月7日(火)から展示

【おねがい】会場内での撮影はご遠慮ください。作品並びに展示台(ケース)、壁等にはお手を触れないようお願いいたします。

第1章 ルドンー幻想のイメージ

【展示室1a】

岐阜県美術館では、19世紀後半から20世紀初頭に活動したフランスの画家オディロン・ルドンによる作品を重点的に収集しています。ルドンの作品には、文学や自然科学などの当時の社会背景と、ルドン自身が幼少期から培ってきた空想の世界とが合体された幻想的なモチーフが登場します。それらは同時代のみならず、次世代の芸術家たちにもインスピレーションを与えました。

第1章では当館ルドンコレクションから、「眼」「生物」「花」に注目した作品を紹介します。

◇黒の怪物たち

作者名	生年-没年	作品名	制作年	素材、技法
オディロン・ルドン	1840-1916	蜘蛛	1887	リトグラフ、紙
		『夢のなかで』VIII.幻視	1879	リトグラフ、紙
		『夢のなかで』VI.地の精	1879	リトグラフ、紙
		『エドガー・ポーに』I.眼は奇妙な気球のように無限に向かう	1882	リトグラフ、紙
		『起源』II.おそらく花の中に最初の視覚が試みられた	1883	リトグラフ、紙
		『起源』III.不恰好なポリープは薄笑いを浮かべた醜い一つ目巨人のように岸边を漂っていた	1883	リトグラフ、紙
		『聖アントワーヌの誘惑』第一集 IX.いたるところで瞳が燃える	1888	リトグラフ、紙
		絶対の探究…哲学者	1880	木炭、紙
		曲がりくねった樹		木炭、紙
		沼の花		木炭、紙
		顕現		木炭、紙
		悲嘆	1893頃	木炭、紙
		『夢のなかで』II.発芽	1879	リトグラフ、紙
		『夢のなかで』I.孵化	1879	リトグラフ、紙
		『起源』表紙=扉絵	1883	リトグラフ、紙
		『陪審員』V.目に見えぬ世界は存在しないのか…	1887	リトグラフ、紙
		『聖アントワーヌの誘惑』第一集 V.すると魚の体に人間の頭をつけた奇妙な生物が現れる	1888	リトグラフ、紙
		『聖アントワーヌの誘惑』第一集 VIII.そしてあらゆる種類のぞっとするような動物がおどりでくる	1888	リトグラフ、紙
		『ギュスターヴ・フロベールに』(『聖アントワーヌの誘惑』第二集)IV.聖アントワーヌ:どこかに始原的な形象があるはずだ。その身体は映像にすぎないのだ	1889	リトグラフ、紙

オディロン・ルドン	1840-1916	『聖アントワーヌの誘惑』第三集 XIII.…頭を持たない眼が軟体動物のように漂っていた	1896	リトグラフ、紙
		『聖アントワーヌの誘惑』第三集 XXII.…革袋のように丸い、海の獣たち	1896	リトグラフ、紙
		『聖アントワーヌの誘惑』第三集 XXIII.さまざまな住民が太陽の国々に棲んでいる	1896	リトグラフ、紙
		『ゴヤ頌』II.沼の花、悲しげな人間の顔	1885	リトグラフ、紙
		『ゴヤ頌』IV.胚芽のごとき存在もあった	1885	リトグラフ、紙
		『陪審員』II.入り組んだ枝のなかに蒼ざめた顔が現れた…	1887	リトグラフ、紙
		『悪の華』VIII.章末の挿絵	1890	転写銅版、紙

◇夢幻の花

作者名	生年-没年	作品名	制作年	素材、技法
オディロン・ルドン	1840-1916	眼をとじて	1890	リトグラフ、紙
		シュラムの女	1897	リトグラフ、紙
		ベアトリーチェ	1897	リトグラフ、紙
		子供の顔と花	1897	リトグラフ、紙
		神秘的な対話	1896頃	油彩、画布
		眼をとじて	1900以降	油彩、画布
		オリヴィエ・サンセールの屏風	1903	油彩、テンペラ、画布
		黒い花瓶のアネモネ	1905頃	パステル、紙
		ファエトンの墜落	1905-06頃	油彩、板
		花の中の少女の横顔	1900-10頃	油彩、板
		オルフェウスの死	1905-10頃	油彩、画布
		花	1905-10頃	油彩、画布

第2章 物語る絵

【展示室1b】

西洋の絵画技法である油彩画が普及し始めた明治時代、パリから帰国した岐阜県出身の画家山本芳翠は《浦島》を制作しました。西洋絵画の主な画題である神話や聖書の一節ではなく、日本の物語を画題として選ぶことで、新しい絵画の魅力をわかりやすく伝えようとしてしました。第2章では、描かれた物語や語りかけてくる絵画の魅力を紹介します。

作者名	生年-没年	作品名	制作年	素材、技法
ピエール＝オーギュスト・ルノワール	1841-1919	泉	1910頃	油彩、画布
山本 芳翠	1850-1906	『蜻蛉集』 (ジュディット・ゴージェ著、山本芳翠画)	1884	書籍(リトグラフ、紙)
		浦島	1893-95頃	油彩、画布
長原 孝太郎	1864-1930	明星	1930	油彩、画布
レオナルド・フジタ 藤田 嗣治	1886-1968	夢	1925	油彩、画布
坂井 範一	1899-1981	古い物語	1972頃	油彩、画布
長谷川 潔	1891-1980	『竹取物語』	1933	書籍(銅版、紙)
木村 荘八	1893-1958	パンの会	1928	油彩、画布
水谷 清	1902-1977	鬼子母神縁起	1973	油彩、画布
坪内 節太郎	1905-1979	葵上	1946	油彩、画布
キシオ・ムラタ 村田 實史雄	1910-1992	星の物語(別題 メキシコの神話)	1983	油彩、画布

*

第3章 心の風景を描く—岐阜ゆかりの版画家から

【展示室1c】

明治末期、自由画教育運動の提唱者として知られる山本鼎によって自画自刻による創作版画は広められました。岐阜県では「飛驒版画」で知られる飛驒の版画教育の歴史は古く、大正時代にまで遡ります。教師であった武田由平らが、授業のなかで子どもたちに版画を制作することの面白さを伝えたのがはじまりとされます。第3章では、創作版画からCGを用いたリトグラフまで、多様な版の表現が生み出す心象風景を紹介します。

作者名	生年-没年	作品名	制作年	素材、技法
武藤 完一	1892-1982	蘇州風家	1940	エッチング、紙
武田 由平	1892-1989	杜	1959	木版、紙
安藤 勲	1906-1989	歴史	1973	エッチング、アクアティント 紙
武藤 六郎	1907-1995	(作品名不詳)	1930代	木版、紙
		東京 新橋演舞場	1932	木版、紙
守 洞春	1909-1985	佐保姫ゆらぐ	1967	木版、紙
岩島 周一	1918-2010	昏るる古物屋	1994	木版、紙
稲田 年行	1925-2014	海への幻想	1985	リトグラフ、紙
船坂 芳助	1939-	Lemon Black and White から	2005	シルクスクリーン、木版、紙
		My Space and My Dimension D-558	2014	墨、紙、画布
堀江 良一	1943-	弧のある風景92-1	1992	木版、紙
牧野 光陽	1947-2017	残照	1998	木版、紙
		垂井宿の雨	2008	木版、紙
		黄昏・赤い橋	2010	木版、紙
廣江 嘉郎	1947-	大地に宿るざわめきの声が聞こえる	2005	木版、紙
林 孝彦	1961-	徳山村考一数える月と日	1996	エッチング他、紙
		徳山村考一夜を放つものたち	1996	エッチング他、紙
		徳山村考一水と時の記憶	1996	エッチング他、紙
		徳山村考一土と風の記憶	1996	エッチング他、紙
		徳山村考一約束の地	1996	エッチング他、紙
近藤 憲昭	1962-	時間の系譜 # 4	2008	リトグラフ、紙

第4章 美を愛でる—日本の風景

【展示室1d】

「愛でる」とは、美しさを味わい感動する、慈しみ愛する、感心する等の意味を持つ、日本人独自の感覚を表すことばです。日本人が美しいと感じる感性(美意識)の特徴のひとつに、自然を愛でることがあります。春夏秋冬の季節がある日本では、四季の移ろいに豊かな感性が育まれ、その様々な姿を日本独自の文化や芸術、文学、哲学、思想に表しながら、広く自然を愛で愉しんできました。第4章では川合玉堂や熊谷守一ら岐阜ゆかりの画家を中心に、描かれた日本の風景美を紹介します。

作者名	生年-没年	作品名	制作年	素材、技法
川合 玉堂	1873-1957	春景秋景山水図	1918	絹本着色、裏箔
		老松蒼鷹	1928	絹本墨画淡彩、裏箔
		深林宿雪	1936	絹本着色
熊谷 守一	1880-1977	湖畔	1946-47頃	紙本墨画淡彩
		富岳秋景	1946-47頃	紙本墨画淡彩
		馬	1958	紙本墨画淡彩
		富士山	1958	紙本墨画淡彩
川崎 小虎	1886-1977	たこ壺に猫柳	1956	紙本着色
		四季草花画卷・冬	1945-50	紙本着色
		四季草花画卷・春	1945-50	紙本着色
岸田 劉生	1891-1929	歳寒三友	1926	紙本墨画淡彩
小島 一谿	1899-1974	寸又峡権現岳	1967	紙本着色
守屋 多々志	1912-2003	泊	1966	紙本着色
土屋 禮一	1946-	椿樹	2005	紙本着色

●
○

*